

Rec'd PC STO 20 JUL 2005

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 11-130082

(43) 公開日 平成 11 年 (1999) 5 月 18 日

(51) Int. Cl.
B65D 25/28

識別記号
105

府内整理番号
B65D 25/28

105 C

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 6 FD (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平 9-314530

(22) 出願日 平成 9 年 (1997) 10 月 29 日

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号

(72) 発明者 早川 茂

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(72) 発明者 橋本 和紀

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(72) 発明者 飯塚 茂雄

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

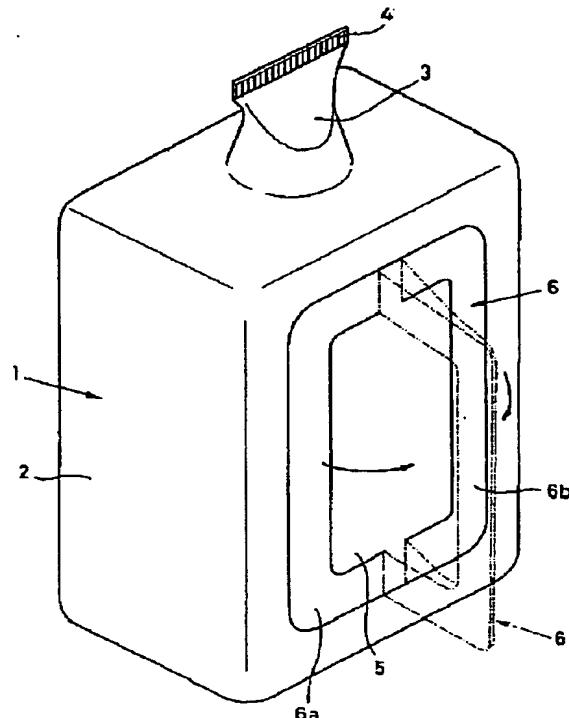
(74) 代理人 弁理士 今岡 良夫

(54) 【発明の名称】圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器

(57) 【要約】

【課題】従来の袋容器と同様に圧潰廃棄を容易にするとともに、従来の袋容器の問題点、すなわち、内容物の充填が容易でなく、充填速度が甚だ遅い。起立させることができ困難であり、起立タイプのものであっても、内容物が少なくなるにつれ倒れ易くなる。持ち難く、注ぎ難く、漏らし易い。残りの内容物を保存する場合、倒れて内容物が漏出し、周辺を汚す。殊に、口部を切り開く詰め替え容器では、漏れ防止はほとんど不可能である。見映えが悪い。等々を解決しようとするものである。

【解決手段】プロー成形により胴 2 の上端に筒状の口部 3 を突設したボトル形の薄肉容器体 1 を形成し、前記胴 2 の外周面適所にラベル 5 の一部で起倒自在に形成した把手 6 を付設し、内容物を充填した上記口部 3 を切断開口可能に融着封止 4 して成る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 プロー成形により胴2の上端に筒状の口部3を突設したボトル形の薄肉容器体1を形成し、前記胴2の外周面適所にラベル5の一部で起倒自在に形成した把手6を付設し、内容物を充填した上記口部3を切断開口可能に融着封止4したことを特徴とする圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項2】 上記把手6につき、インモールドにより上記胴2の適所に一体的に付設したラベル5の一部に左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを設けることで形成した請求項1記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項3】 上記ラベル5を上記胴2の付着させるラベル本体7と該ラベル本体に接合一体化させた表面ラベル8とで形成し、該表面ラベルの適所に上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを起倒自在に形成するとともに、該コ字状起倒片と対応する上記ラベル本体7の対面部を剥離面9a, 9bにした請求項2記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項4】 上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを1枚のラベル5に形成して、該ラベルを上記胴2の前面、右側面、後面、左側面の4面におけるいずれか1面乃至4面に付設した請求項2又は請求項3記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項5】 上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを2枚のラベル5に個別に形成して、各ラベルを上記胴2の前面、右側面、後面、左側面の4面におけるいずれか1面乃至4面に付設した請求項2又は請求項3記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【請求項6】 上記口部3の融着封止4において、切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口10を二次的に形成した請求項1、請求項2、請求項3、請求項4又は請求項5記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、用済み後の容器類は、分別収拾されて再利用に供されているが、処理に限度もあり、未だ多くのものが圧潰されることもなくそのままの姿で廃棄されている現状であり、これを如何にするかが重大な問題となっている。かかる容器類のゴミ問題に鑑み、最近では、単なる容器として或いは詰め替え容器としていわゆるパウチと称される袋容器が出回るようになってきている。この種の袋容器は、廃棄時に、折り畳み、圧潰等によりかなり小さくすることができて、量を格段に少なくすることができる点で優れている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、その反面、この種の袋容器には保形性がなく、形が定まり難いくねくなしたものであるために、使用上、取り扱い上或いは外観上、次のような多くの欠点も合わせて有している。

- ① 内容物の充填が容易でなく、充填速度が甚だ遅い。
- ② 起立させることが困難であり、起立タイプのものであっても、内容物が少なくなるにつれ倒れ易くなる。
- ③ 把持手段を有しないこともあって持ち難く、注出方向が定まり難いため注ぎ難く、また、取り扱いが容易でなく、漏らし易い。
- ④ 内容物を途中まで注出して残量を保存するような場合、倒れて内容物が漏出し、周辺を汚すことが多い。殊に、口部を切り開くような詰め替え容器では、十分に閉口できないため、漏れ防止はほとんど不可能である。
- ⑤ 見映えが悪い。

そこで、本発明は、圧潰廃棄を容易にするとともに、ボトルの機能をも十分發揮できるようにして、それらの問題点を全て解決しようとするものである。

【0004】

20 【課題を解決するための手段】 上記目的達成のため、請求項1の発明は、プロー成形により胴2の上端に筒状の口部3を突設したボトル形の薄肉容器体1を形成し、前記胴2の外周面適所にラベル5の一部で起倒自在に形成した把手6を付設し、内容物を充填した上記口部3を切断開口可能に融着封止4して成る。

【0005】 請求項2の発明は、請求項1記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記把手6につき、インモールドにより上記胴2の適所に一体的に付設したラベル5の一部に左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを設けることで形成して成る。

【0006】 請求項3の発明は、請求項2記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記ラベル5を上記胴2の付着させるラベル本体7と該ラベル本体に接合一体化させた表面ラベル8とで形成し、該表面ラベルの適所に上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを起倒自在に形成するとともに、該コ字状起倒片と対応する上記ラベル本体7の対面部を剥離面9a, 9bにして成る。

【0007】 請求項4の発明は、請求項2又は請求項3記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを1枚のラベル5に形成して、該ラベルを上記胴2の前面、右側面、後面、左側面の4面におけるいずれか1面乃至4面に付設して成る。

【0008】 請求項5の発明は、請求項2又は請求項3記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを2枚のラベル5に個別に形成して、各ラベルを上記胴2の前面、右側面、後面、左側面の4面におけるいずれか1面乃至4面に付設して成る。

50

【0009】請求項6の発明は、請求項1、請求項2、請求項3、請求項4又は請求項5記載の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器にあって、上記口部3の融着封止4において、切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口10を二次的に形成して成る。

【0010】

【発明の実施の形態】

その1. 図1は、請求項1乃至請求項4の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る第1の実施の形態を示している。図1において、1は、ポリオレフィン系合成樹脂等でプロー成形したボトル形の薄肉容器体、2は、該薄肉容器体の箱形の胴、3は、該胴の上端から突設した比較的大きな円筒状の口部で、該口部は、内容物の充填後に加熱融着手段、超音波溶着手段等により両側から押し潰して一字状に融着封止4するものである。5は、胴2の前面、右側面、後面、左側面のいずれか1面にインモールドにより一体的に付設したラベル、6は、該ラベルの両側縁部乃至上下縁部に起倒自在に形成した把手である。図7に示すように、ラベル5は、胴2の付着させるラベル本体7と該ラベル本体に接合一体化（例えば接着）させた表面ラベル8とで形成し、該表面ラベルの適所に左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを起倒自在に形成するとともに、該コ字状起倒片と対応するラベル本体7の対面部を、剥離剤を塗布して形成した剥離面9a, 9bにしている。如上の構成であり、薄肉容器体1には、口部2を通じて一般のボトルと同様にして内容物を充填し、充填後にその口部2を加熱融着手段、超音波溶着手段等により両側から押し潰して一字状に融着封止4する。次に、その内容物を注出するときは、その口部2を鉄等により切断開口させ、左右一対のコ字状起倒片6a, 6bすなわち把手6を起こして、該把手を把持して薄肉容器体1を適宜に傾倒させることにより、その口部2から内容物を注出すればよい。なお、注出の際に胴2を圧搾してもよい。注出後に内容物が残存し、これを保管するときは、その薄肉容器体1を起立させて床や棚等に置き、口部2を栓やキャップなどで閉口させればよい。

【0011】その2. 図2は、請求項1乃至請求項4の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る第2の実施の形態を示している。この場合は、図1のものにおいて、胴2の横断面形状を正方形にして、その前面、右側面、後面、左側面のいずれかの隣接する2面に跨げてラベル5を付設し、把手6を底部に位置させるようしている。他の構成、機能、作用等は図1の場合と同じである。

【0012】その3. 図3は、請求項1乃至請求項4の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る第3の実施の形態を示している。この場合は、図1のものにおいて、ラベル5の横幅を大きくし、該ラベルを胴2の前面、右側面、後面、左側面のいずれかの3面に跨げて付設し、把手6を中間面に位置させるようにしてい

る。その他の構成、機能、作用等は図1の場合と同じである。なお、ラベル5を胴2の前面、右側面、後面、左側面の4面に跨げて付設してもよい。

【0013】その4. 図4、図5は、請求項1乃至請求項3、請求項5の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る第4の実施の形態を示している。この場合は、図1のものにおいて、胴2の横断面形状をほぼ梢円に形成し、把手6の左右一対のコ字状起倒片6a, 6bを2枚のラベル5に個別に形成して、各ラベルを胴2の前面と後面に付設し、その把手6を側面に位置させるようしている。他の構成、機能、作用等は図1の場合と同じである。なお、2枚のラベル5を胴2の前面、右側面、後面、左側面の1面又は3~4面に付設してもよい。

【0014】その5. 図6は、請求項6の圧潰廃棄容易な合成樹脂製簡易使い捨て容器の発明に係る第5の実施の形態を示している。図1乃至図5に示す薄肉容器体1の口部3の融着封止4において、切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口10を二次的に形成している。この場合は、注出の際、注出口10を切断線11で切断開口されればよい。なお、切断線11を薄肉破断線として、もぎ取りで破断開口させるようにしてもよい。

【0015】

【発明の効果】請求項1、請求項2、請求項3、請求項4、請求項5、請求項6の発明によれば、既述構成であるから、以下の効果を奏する。

(1) 薄肉容器体1がボトル形であり、プロー成形で適度に剛性を持たせることができ、しかも、把手6を有するから、持ち易く、取り扱い易く、かつ、注出し易く、注出の際に不意の屈曲等により注出方向が変動することや該変動で注ぎ難くなることはなく、漏らすこと少なくできる。また、把手6は、ラベル5を利用した簡単で起倒自在なものであるから、邪魔になるようなことはなく、薄肉容器体1をプロー成形する際にインモールドで簡単に付設できる。

(2) 薄肉容器体1が胴2の上端に比較的大きな筒状の口部3を有するボトル形のものであり、しかも、プロー成形で適度に剛性を持たせることができるから、薄肉容器体1にはボトルと同様にして容易に内容物を充填することができて、袋容器ではあっても高速度に充填でき、充填後の口部3の封止4も押し潰して融着（シール）させることで簡単かつ迅速に行える。

(3) ボトル形の薄肉容器体1であり、プロー成形で適度に剛性を持たせることができるから、適確に起立させることができて、安定に保存、保管でき、しかも、内容物の充填後は、口部3の封止により完全な密閉状態で漏れなく保存、保管できる。

(4) ボトル形の薄肉容器体1であり、プロー成形で適度に剛性を持たせることができて、適確に起立させることができるとから、内容物を途中まで注出して残量を保存す

るような場合でも、転倒等することなく保存、保管でき、また、切断開口後の口部3は栓体等で簡単に閉口させることができ、したがって、内容物が不意に漏出することも、不意の漏出で周辺を汚すこともない。

(5) ボトルと同様の外観を呈するので、見映えがよい。

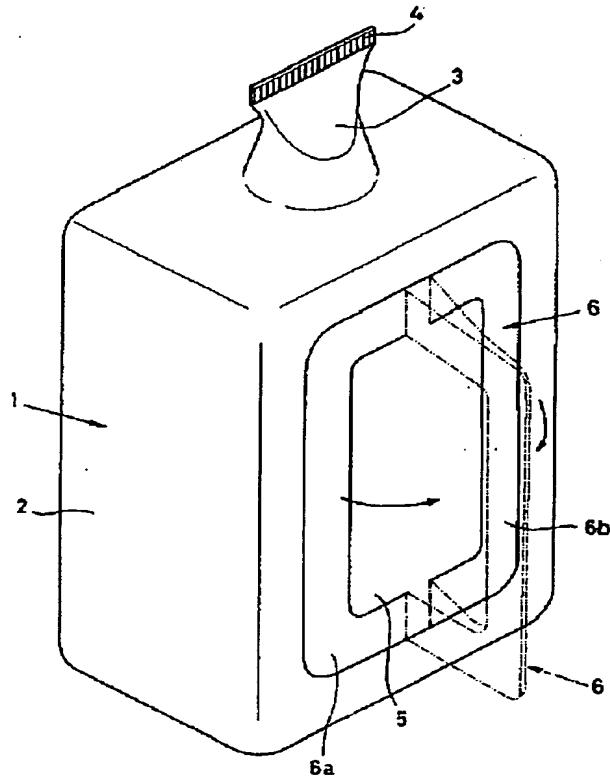
(6) ボトル形ではあっても、キャップ等を有しないから、廃棄の際には、簡単に圧潰、折り畳み等できて、かなり小さくすることができ、その量を格段に少なくすることができる。また、キャップ等を分別する必要がないから、手間もかからない。ことができる。

(7) 全体をブロー成形で簡単に一体成形できて、極めて容易に製作でき、安価に提供できる。そして、廃棄のロスを少なくできる。

【0016】加えて、請求項6の発明によれば、内容物充填後の口部3の封止4において、切断開口可能に閉口した比較的小さな注出口10を二次的に形成しているから、内容物を注出する際には、注出口10を極めて簡単に破断開口させることができ、容易に注出できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】



【図1】 請求項1乃至請求項4の発明に係る第1の実施の形態を示す斜視図である。

【図2】 請求項1乃至請求項4の発明に係る第2の実施の形態を示す斜視図である。

【図3】 請求項1乃至請求項4の発明に係る第3の実施の形態を示す斜視図である。

【図4】 請求項1乃至請求項3、請求項5の発明に係る第4の実施の形態を示す斜視図である。

【図5】 同実施の形態の分解斜視図である。

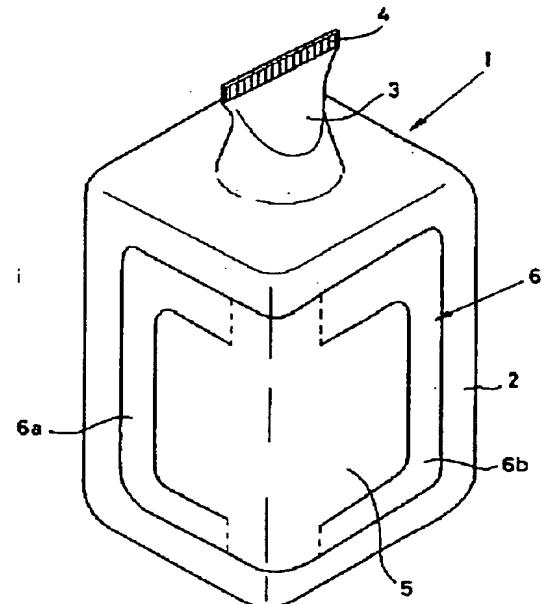
【図6】 請求項6の発明に係る第5の実施の形態を示す要部の斜視図である。

【図7】 ラベルと把手についての分解斜視図である。

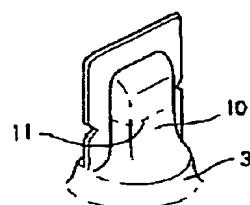
【符号の説明】

1 …薄肉容器体	2 …胴
3 …口部	4 …封止
5 …ラベル	6 …把手
6a, 6b …コ字状起倒片	7 …ラベル本体
8 …表面ラベル	9a, 9b …剥離面
10…注出口	11…切断線

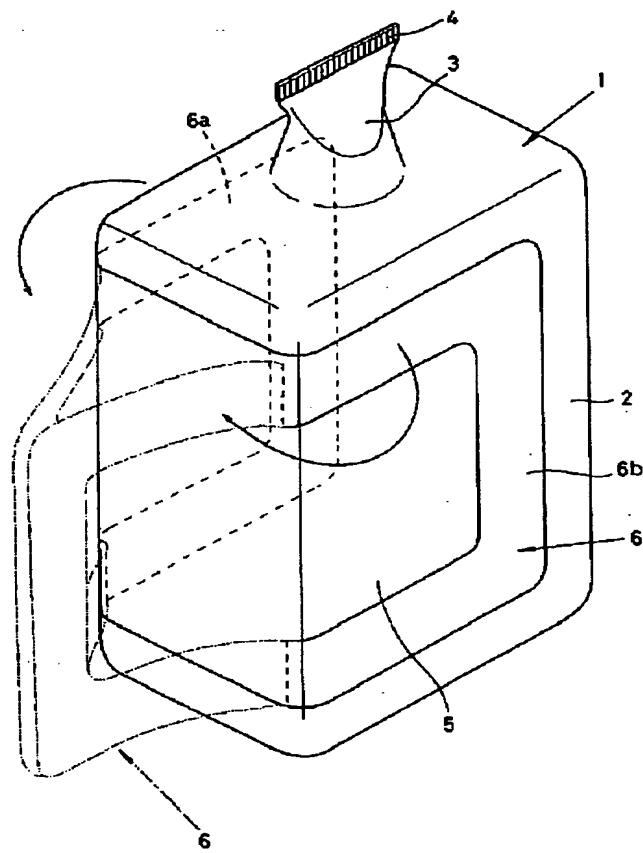
【図2】



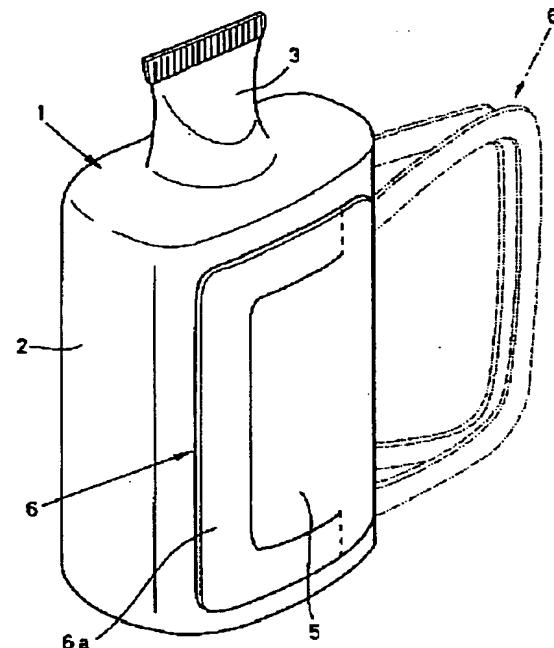
【図6】



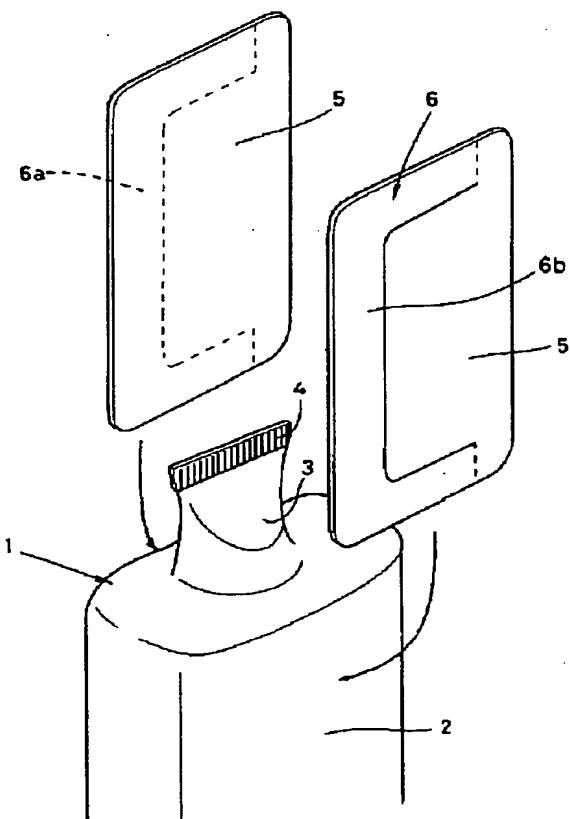
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 7】

